

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

# MELDIA

月刊メルディア  
VOL.31  
TAKE FREE

障がい者を応援!

Nextwel 日野信輔

×  
大矢真那

あやなんがいく

医学博士 関谷剛 × 篠崎彩奈

布施博が訊く

特別編「布施博が訊く・選」

人気連載エッセイ

水越けいこの「M size / はじまり」

MELDIA | 2020 JULY VOL.31

月刊MELDIA VOL.31 2020年5月25日発行(毎月1回25日発行) 第31号 通巻31号  
発行所 / 一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA  
GROUP

## 同じ家は、つくらない。



メルディアグループ  
<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計  
〒163-0632  
東京都新宿区西新宿1-25-1  
新宿センタービル32F

メルディアグループ  
公式Instagramアカウント  
完成事例公開中!「#メルディアグループ」で検索  
[@meldia\\_group](https://www.instagram.com/meldia_group)



# 「まだ見たことのない 福祉へ」

株式会社 **Nextwel**

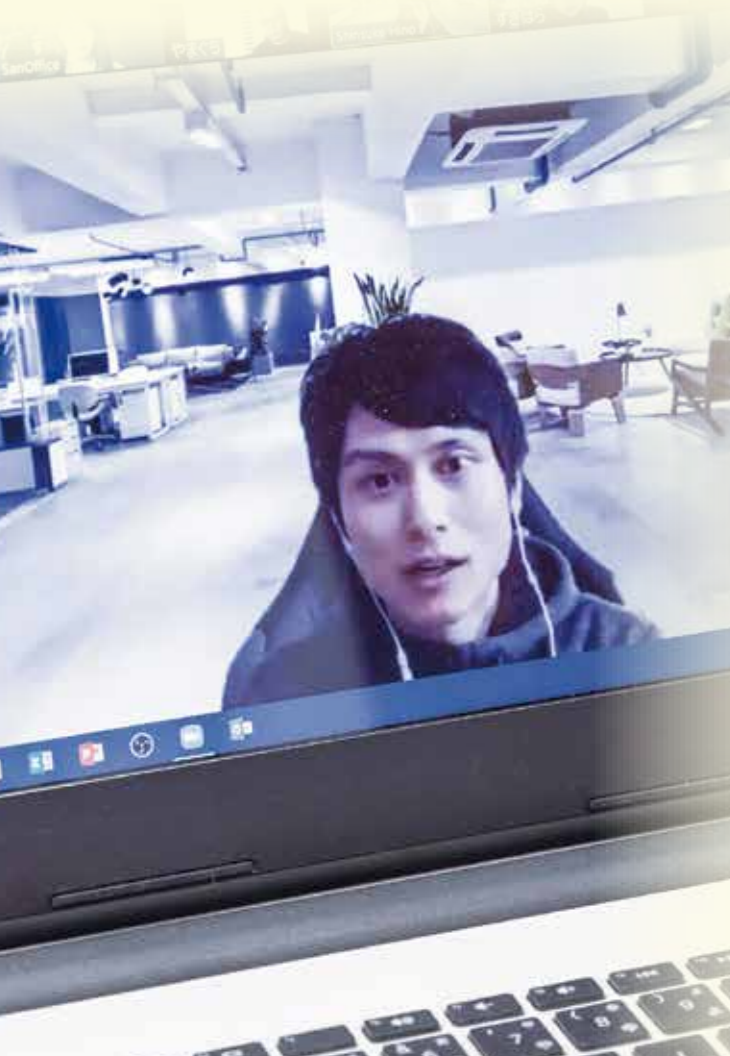


「障がいのある当事者として、自分の体験談を発信するだけで誰かの役に立ちます。些細なことでもいいんです。自分が他人の役に立てることを実感して、少しずつ自信を持って欲しいです」こう語ってくれたのは、「まだ見たことのない福祉へ」というスローガンを掲げる、株式会社Nextwelの代表取締役・日野信輔さん。障がいのある人たちを主役に、共に未来に向けて生き残る「新しい福祉」を目指す日野さんにお話しをお聞きしました。

# 未来に生き残る新しい福祉を創り出す



# Create new welfare



大矢 まずはNextwelの主な事業内容についてお聞かせください。

日野 福祉事業では、「Welfare Search」という、障がいのある当事者や福祉の専門家が発信する福祉情報サイトの運営、福祉団体や個人のサポート業務、障がいのある人たちへ仕事の紹介も行っていきます。

## 人は必ず誰かの役に立てる 誰にでも生きる価値がある

多くいるので、福祉の情報を必要としている人に届けることに力を注いでいます。ただ、インターネットの情報発信だけで関係性を強くするのは、やはり難しいんです。そこで、「福縁会（ふくえんかい）」という、福祉の縁を繋げる交流会を定期的に行っています。

大矢 いろんな人たちが参加しているんですか？

日野 障がいのある人や家族、福祉系事業者の代表や職員、医療の専門家など、本当に様々です。福縁会では、これから福祉に携わっていきたい人の参加も歓迎しています。

大矢 インターネットとリアルという両方を大切にされているんですね。

日野 主に弱視の人が主体となってプレーするロービジョンフットサルチーム「グランデ東京」のキャプテン・岡晃貴さんと共同で開催しています。福縁会の参加者の中に人ごみが苦手な電車に乗ったことがほとんどないという人がいます。そんな彼がわざわざ電車を乗り継いで福縁会に来てくれて、今や常連になりました。初めて参加した時からみるみるうちに明るく社交的に変わっていく様子を、傍で見られたことが本

## 障がいのある当事者ではない

## だからこそ人を巻き込む

聞きに行きました。そんな中、障がい者雇用をしている経営者から福祉の現状を聞いたんです。

大矢 障がいのある人の多く、がとも少ない月収で、障がい者雇用で企業に就職できる人はとても限られているんですね。

日野 僕は小学校から大学まで野球一筋の学生時代を送ってきましたが、野球を引退したら打ち込めることがなくなってしまうんです。でも、自分で何かしたいという思いはありました。そこで、若さの勢いもあって多くの経営者に話を

大矢 障がいのある人の多く、がとも少ない月収で、障がい者雇用で企業に就職できる人はとても限られているんですね。

日野 身近に障がいのある人がいて、「親が亡くなったら、その後どうやって生きていくんだろう」という思いがずっとあったので、月収を知った時に衝撃を受けました。そんな時、大学院のオープン講座で坂本光司教授の授業を受けた

大矢 真那  
おおやま さな

に嬉しかったですね。突出したスキルがなくても、人の役に立てることは必ずあるんです。

大矢 例えばどんなことですか？

日野 「車いすで免許を更新したレポート」など、当事者が発信するリアルな体験談は、とても価値が高い。その人にしかできないことが必ずあります。少しずつ成功体験を積み上げて自信を付けて欲しいと思っています。

大矢 障がい者雇用に力を入れ、高品質のダストレスチヨークを作っていることで有名な日本理化学工業株式会社を知りました。福祉に興味を持つまでは、地元にもこのような素晴らしい会社があることを、気にも留めませんでした。

大矢 それで広く知ってもらうために、インターネットを活用しようと思ったんです。

日野 そうなんです。最初はひとりだけで始めましたが、障がいのない僕が何か話すより、当事者に発信してもらった方が、読み手の心に響くと思うんです。そこで、障がいのある人や専門家に記事を書いてもらうようになりました。一方、僕はメディア運営や広報が得意で福祉関係の知人

株式会社 Nextwel  
代表取締役  
日野 信輔 さん  
ひの しんすけ

※編注／記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。

一般財団法人メルディア

# MELDIA

おかげさまで「一般財団法人メルディア」は設立2周年を迎えることができました。当財団では、障がいのある人を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じ、広く社会と人々に貢献するため、これらの事業を行っています。

## 02 広報誌の発行

障がいのある方と、そのご家族への情報発信を行うため、フリーペーパーの広報誌「月刊メルディア」を毎月発行しています。毎月2万部強を発行し、現在は、首都圏および中京エリアの大型商業施設や大型店舗、特別支援学校、全国の障がい者支援施設等にて無料配布しています。



## 04 サッカー支援

才能があっても家庭の経済的な事情などで、プロプレイヤーを目指すことをあきらめざるを得ない青少年たちの夢を応援し、支援するための「奨学制度」を設けています。2020年5月現在、選考会を経て選ばれた7名の若者に対しての支援を行っています。



## 01 事業内容

- ① 障がい者及び障がい者を支援する団体等への助成および支援事業
- ② 様々な理由からスポーツ(サッカー等)を続けることができない児童、青少年に対する助成および支援事業
- ③ その他の事業



## 03 取材活動

広報誌「月刊メルディア」では、障がい者支援事業所、障がい者雇用を推進している企業、スポーツ施設、各種団体、障がいのあるアーティストなどに取材をさせていただき、それらを掲載しています。取材記を当財団のFacebookページにもご紹介していますので、是非そちらも併せてご覧ください。



## 05 サッカー観戦チケットプレゼント

Jリーグのシーズン開催期間中は、「湘南ベルマーレ」のホームゲーム観戦チケットをプレゼントしています。療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人と介添者の人、2名1組(ペア)で試合を観戦できます。観戦チケットをご希望の方は巻末の「チケットプレゼント」のページに記載の要項をご覧のうえ、ご応募ください。



©湘南ベルマーレ

※5/15現在、Jリーグ全試合が休止中です。詳細はP30にてご確認ください(編集部)

## ALL ABOUT MELDIA

メルディアとは、「メダル」を意味する英語の「MEDAL(メダル)」とイタリア語の「MEDAGLIA(メダリア)」を合わせた造語となっており、終の棲家を手に入れる喜びを「栄光に輝くメダルを手に入れるような喜び」に見立てています。誰も人生は一度しかないものです。

その、一度限りの人生の夢の実現を、メルディアグループの住宅をお求めになるお客様と同じように、障がいのある人、経済的に恵まれない人、多様性のある多くの人たちの人生においても、「夢」を実現していただくための一助となれることを目標に、これからも当財団の社会貢献事業を進めて参ります。

### ■ 財団概要

名称 一般財団法人メルディア  
(英文名: General Foundational Juridical Person MELDIA)  
設立者 小池信三  
設立日 2017年5月23日

所在地 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F  
電話 03-5381-3213  
URL <https://meldia.org/>  
MAIL [org@gf-meldia.com](mailto:org@gf-meldia.com)



MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



障がい者を応援 株式会社Nextwel

# For future welfare



大矢 実際の体験談は心に響きますし、悩んでいる人の背中を押せますね。

日野 昨年は、「福祉国家」とも呼ばれるデンマークを視察してきました。誰もが暮らしやすい社会とはどんなものを体験し、デンマークの人たちの自己肯定感の高さに驚きました。日本とデンマークの良い部分を融合して、日本流の福祉を創りたいです。

大矢 そのために、どんなことをしますか？

日野 福祉は他の業界から見ても壁があるようなんです。「福祉は行政や施設がやるもので、自分には何もできない」と思っている人が多い。でも実際には、福祉と関わることができる業界はとて多いんです。対話をしながら、他業種の人に福祉との接点をアドバイスすることもあります。

大矢 どんなことを話すんですか？

日野 当社ではウェブマーケティングも行っているのですが他業種とも交流があります。雇用するほどの仕事量はないけれど、手伝って欲しいという要望が多いです。ライティングや動画編集、写真撮影などの技術を持つ障がいのある人を紹介しています。福祉と関わる仕事は意外と多いんですよ。

大矢 例えばどんな仕事ですか？

日野 工務店とコラボして、バリアフリー住宅の設計に障がいのある人が当事者としてアドバイザーしたり、デザイナーとコラボして一般の市場で勝負できる価値の高い商品の開発をしたり。相手の話を聞いているとアイデアがひらめくので、お互いにメリットがある仕組みづくりを提案します。今まで縁がなかった人に福祉のことを知ってもらうためにも、人をどんどん巻き込み、福祉の新しい価値を創造したいです。



政府から発出された「緊急事態宣言」と、政府ならびに東京都からの「外出自粛要請」を受けて、被取材者、取材者、編集部、関係者などの安全面および衛生面に最大限の配慮をし、WEB会議システムを利用したリモート取材を行いました。

今回はWEB会議システムを利用してお話をお聞きしました。日野さんの語り口は控えめな一方、どうすれば障がいの有無に関係なく暮らしやすくなるかを考えて行動し、多くの人の応援をうけて巻き込んでいく様子に、強い信念を感じました。また、他業界とコラボして、新しい価値を創りたいと、日野さんから次々と飛び出す事業のアイデアに驚かされました。これらのアイデアが思い付くのも、障がいのある人たちと対話し、その悩みや思いに向き合ってきたからだと思います。日野さんが挑戦する「まだ見たことのない福祉」を見られる日が楽しみです。

取材/大矢真那

株式会社Nextwel

神奈川県川崎市川崎区駅前本町 11-2  
フロンティアビル 4階  
TEL / 044-455-5163  
URL / <https://nextwel.co.jp/>



# Nextwel

大矢真那Twitter/  
[https://twitter.com/oyamasana\\_1106](https://twitter.com/oyamasana_1106)





※image

# あやなん !!がいく Ayanan goes

今回は「産業医」にスポットライトを当てて紹介します!

## Medical record

企業と労働者の  
健全で健康な環境を  
護るのが産業医  
健康で持続的な生活を  
優先しながら  
社会参加を後押しする



### 企業と従業員を護る産業の要 産業医が説くメンタルヘルス

現代は、様々な要因によって引き起こされるストレスを抱える人が多いとされています。社会構造の変化、環境の変化、対人関係もさることながら、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大による「社会不安」の増大に比例して、私たちが受ける心的不安によってストレスの量も増えているのが現状のようです。

ストレスから発症する病気だけではなく、その他の疾病に悩む人たちが多いと企業としての事業体運営にも影響を及ぼすといえます。

企業と従業員、双方の健全で健康な環境を護り、事業体の運営をサポートする労働衛生コンサルタントで医師の関谷剛さん(合同会社ロハスオフィス)にお話しを聞きました。

篠崎 関谷さんの主な仕事を教えてください。

関谷 医師なので基本的には医療に携わる仕事をしていて、主に産業医をやっています。

篠崎 「産業医」というのは一般的なお医者さんとは何が違うんですか？

関谷 「労働安全衛生法」という法律で、50名以上の常時雇用者がいる企業には専任の医師を置くことが求められています。それが産業医と呼ばれる医師のことです。

篠崎 具体的にはどんなことをするお医者さんなんでしょうか？

関谷 企業や従業員に対して、健康的に働けるように指導や助言をするなどの「労働衛生」の管理を担うのが産業医の仕事です。

篠崎 あまり聞いたことがない職種でした。

関谷 一般の人たちとはお会いする機会が少ないので知らない人が多いかもしれませんが、篠崎 私たちがイメージするような一般的な病院のお医者さんとは違うんですね。

関谷 病院の医師というのは、(患者の)病気やケガが治って日常生活に支障がないと判断すれば「復職しても良い」と診断します。でも、いざ復職となった時に、「以前と同じように働けない」「だとか、「以前と同じ職場で働くことができな」というケースもあるんです。そのような

場合に、企業の業務内容や職場の状況なども含めて総合的に復職の判断をすることも産業医の仕事のひとつです。

篠崎 産業医は医師としての専門知識を持っているだけでなく、企業のことや労働のことまで分かっている必要があるわけですか？

関谷 安全かつ健全に業務が遂行できるか、業務内容に問題がないか、その他も含めて判断する能力が産業医には求められます。時には、病気やケガだけでなく労働環境や人間関係から受けるストレスが原因で心的な病気を発症する人もいるので、その改善に努めるよう企業に進言することもあります。

篠崎 そういふ部分は企業の総務や人事の担当者でも判断が難しいところですよ。

関谷 ストレスが一因となって心的な疾患を発症する人が増えています。例えば、「だるい」とか「やる気がない」と訴える人がいたとして、医学的なメンタルヘルスの見地に基づいて、どうすれば健全に業務を遂行できるか、どのようにそれを改善していけば良いのか、などを従業員と企業と産業医とで一緒に考えるということもあります。

篠崎 専門的な知識を駆使して従業員を護ることが、ひいては企業を支えることにもなるかと。

関谷 労働環境が原因で不利益を被る人たちが出ることのないように見守ることも産業医の役目だと思います。

※編注/記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。





## あやなん !!がいく Ayanan goes

世の中が情報過多な  
ことも実感しています...

情報化社会の進行が病因にも  
メンタルヘルスクアの重要性

篠崎 近年、精神障がいのある人が増加傾向にあると聞いていますが、その原因はどこにあると関谷さんは考えますか？

関谷 いろんな説があるんですが、大別して3つの原因があるとされています。ひとつは、心的疾患に因る症例が広く知られるようになったことだと思っています。

篠崎 確かに、心的疾患に代表される症例などが紹介されるのを目にしたたり、聞いたりすることが増えた気がします。

関谷 単に「落ち着きがない」だとか「特定のジャ



▲運動によって血流が促進されることで脳を活性化されてストレスの軽減になるとか。「ラジオ体操くらいの軽度の運動がおすすめ」と関谷さん。

篠崎 最近では「SNS疲れ」だなんていう言葉を目にするのも多くなりました。

関谷 きちんと食事を摂って身体と脳に栄養を補給すること、睡眠をとって脳を休ませることが必要です。栄養が偏ること、脳を酷使することがストレスを蓄積してしまふことにも繋がっていますよ。

篠崎 ICTの進化によって、生活が便利になったのと引き換えに、そういう弊害も生まれ

ストレス社会から  
企業と従業員を護ります！



合同会社ロハスオフィス代表  
労働衛生コンサルタント  
医師/医学博士

関谷剛さん  
せきやたかし



AKB48 チームA  
篠崎彩奈  
しのぎあやな

ンルの勉強が苦手だ」とされていた人たちの一部には、心的な疾患や発達障がいがあるということが分かってきました。  
篠崎 そうなんですか。  
関谷 次に考えられるのが、ICT(情報技術)の進化と核家族化によって人と人とが物理的な対面によって交わすコミュニケーションが減少しているからだと言われています。

篠崎 この取材もそうですが、ICT(情報通信技術)を使って、機器や装置を介してのコミュニケーションが増えていますよね。  
関谷 母親と幼い子どもとの関係でよく言われるように、そもそも人は自分以外の人と接して

ていることになるんですか。  
関谷 日常生活で受けるものだけに限らず、仕事で受けるもの、職場の人間関係に起因するものなど、常に多くのストレスに晒されていることになりまふ。ストレスによって多くの病気が引き起こされることが古くから知られています。ストレスを要因とした心的な疾患に陥る人がいないように見守ること、企業と従業員のメンタルヘルスを護ることが産業医の役目なのだろうと思います。

密にコミュニケーションをすることでメンタル(精神)が安定します。

篠崎 なるほど。  
関谷 近年では物理的に人と人とが直接会って交わすコミュニケーションの機会が極端に減ったために、「コミュニケーション能力が衰えた」とも言われているので、それも原因になっていると思います。

篠崎 そうなんですか。  
関谷 人と人とが直接会って交わすコミュニケーションが減っているとはいえず、インターネットを介した情報交換や情報入手は格段に増えていますよね？  
篠崎 はい。そう思います。

関谷 インターネットの情報流通量が4年間で約7倍になったという研究※もあるほどです。それによって、人間が脳で処理しなければならぬ情報量が増え過ぎてしまった。  
篠崎 その結果、どうなりますか？  
関谷 常に膨大な量の情報に晒されていることで、脳が情報処理に費やす時間が減ってしまふ。結果、脳が休息する時間が短くなってしまふんです。



### 取材後記

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための「緊急事態宣言」と「外出自粛要請」の発出によって、WEB会議システムを利用した取材になりました。情報過多がストレスになり、ひいては心的疾患を誘発することにもなるという関谷さん。その防止には睡眠と栄養バランスの良い食事、そして軽度の運動が必須だといひます。皆さんも家の中で過ごす時間が多いと思います。きちんと睡眠と栄養をとって、身体と脳を休息させることでストレスを溜めないようにしてください。

## LOHASOFFICE

合同会社ロハスオフィス  
東京都練馬区早宮1丁目1-16  
金津賀第5ビル604  
TEL / 03-6915-8801  
URL / <https://www.lohasoffice.org/>



政府から発出された「緊急事態宣言」と、政府ならびに東京都からの「外出自粛要請」を受けて、被取材者、取材者、編集部、関係者などの安全面および衛生面に最大限の配慮をし、WEB会議システムを利用したリモート取材を行いました。



※2008年度に総務省が発表した情報通信量の計測数値による。





# これまでの内容を 自選して再構成&再掲載 2年半に及ぶ過去の取材を 改めて振り返る



これまでの取材で、障がいのある人たち、福祉や支援に携わる人たちに話を訊いてきた。時には、障がいのある人たちが行う作業に僕自身が参加して体験したこともあった。取材の度に、知らなかったこと、知ろうとしなかったことが、いかに多かったのかと実感させられるばかりだった。

「今、政府による緊急事態宣言の発出と東京都の外出自粛要請を受けて、僕と編集部とで協議した結果、外出と対面を伴う取材を自

政府から発出された「緊急事態宣言」と、政府ならびに東京都からの「外出自粛要請」を受けて、被取材者、取材者、編集部、関係者などの安全面および衛生面に最大限の配慮をし、記事の一部を既刊号で取材した内容を再構成して掲載しています。

布施博

## 支援と配慮だけでは足りない 相手の気持ちになって考える

今のようにMELDIAに関わるようになる以前から、障がいのある人たちだけでなく、何か困っている人、問題を抱える人を街で見かけるようなことがあれば、出来る限りの手助けはしようという意識だけは常に持っていた。

でも、MELDIAの取材で、障がいのある人たちにお会いしてお話を伺うと、これまでに僕が行ってきた配慮では足りないのだと再認識させられることが多くあった。

「配慮」とは、「心を配ることだ」という。取材を重ねて多くの人たちに話を訊くにつれ、配慮という言葉に多少の違和感を覚えるようになった。「心






東京都豊島区  
ハートランドみのり

社会福祉法人 豊心会  
地域活動支援センターⅢ型  
ハートランドみのり/施設長  
てあとるみのり/総監督

**梶田 佳生**さん  
すぎたよしお

**個性がプラスに作用する演劇  
得られる評価は成長する糧に**

障がいのある人たち、福祉事業所の職員、学生、地域住民らが一体となって活動をしている劇団がある。それが東京都豊島区にある地域活動支援センターⅢ型「ハートランドみのり」を拠点とした劇団「てあとるみのり」だ。

障がいのある人たちを対象にした福祉的な演劇とは異なり、チケットを販売し、集客も行うという本格的な劇団として運営されている。

この活動に対して、僕も演劇界の一員として、劇団の主宰者として、若い役者を指導する演出家として、大変興味があった。

同劇団を訪ね総監督の梶田佳生さんに運営の理念などを訊いた。

梶田 障がいのある人たちって、他人から褒められた経験が少ないと思います。彼らにも周囲から評価を受けたり、褒められたりという経験をして欲しいなと思いました。(中略)本気でやってみて周囲に「すごいな!」と思わせることができたらずくに評価が返ってくる、それが演劇ではないかと考えました。

梶田さん自身は学生の頃に俳優を志していた



社会福祉法人 豊心会  
地域活動支援センターⅢ型  
ハートランドみのり  
東京都豊島区南大塚3-30-2 今井ビル1F  
TEL / 03-5928-1920  
<http://housinkai.or.jp/guide/tabid/72/Default.aspx>



梶田 演劇って、台詞を覚えなくてはいけないし、稽古も大変です。(中略)でも、頑張つて稽古をした結果、舞台本番の終演後に大きな拍手をいただいたり、「良かったよ」と声を掛けていただくことが多いんですね。そういう経験をすることで、「次はもっと評価されるように頑張ろう」と思ってくれる前向きな人が増えてきたと感じます。

のだそつだ。一旦はその夢を諦めて福祉の仕事に就いたものの、「演劇をやることで得るものが多かった」という自身の経験を福祉に活かせないかと考えていたらしい。しかし、演劇というのは障がいのある人たちにとっては負担が大きい活動なのではないのだろうか。僕のその疑問に対して梶田さんはこう答えた。




東京都足立区  
グラッパ東京

株式会社てっぱん  
障害福祉サービス事業所のんの  
特定相談支援員

**楠原公代**さん  
なんばらきみよ

**敢えて福祉施設と宣伝せずに  
普通のレストランとして営業**

僕の出身地でもある東京都足立区にあるイタリアンレストラン「グラッパ東京」。ここは就労継続支援A型事業所としても機能しているのだが、敢えて「障がいのある人が働く」とは謳わずに普通のレストランとして営業している。その理由を同店を運営する「障がい福祉サービス事業所」のんの「楠原公代」さんに訊いた。

楠原 就労中は一見では障がい者だとは分かりませんから、最初の頃はお客様から理解を得られない場面もありました。(中略)彼らは私たちと同じ「普通の生活」をしているだけなんです。普通の生活をしている人たちのことをわざわざ喧伝する必要はないですよね?

「普通の生活をしている人のことを敢えて言及する必要はない」という楠原さんのスタンスは新しい認識を僕に与えてくれた。「障がい者支援」という部分に関しても敢えて支援とは言わない理由をこうも説明する。

楠原 背の小さい人は高い場所にあるものを取れないので、背の高い人に頼みますよね。また逆

も然りなことも多くあります。みんなそうやってお互いに手を貸し合って生きています。誰にでも「できること・できないこと」はあると思います。自分ができることで他人を助け、他人ができないことを助けてあげること。これですごく普通のことだと思えます。

言われてみれば、確かにそう。誰でも自分ができることを誰かに頼むことは多い。それが普通なはずだ。さらに楠原さんは、障がいのある人たちが特性や個性を活かして働くことに対してをこう語る。

楠原 障がいのある人たちの中には感覚が非常に鋭い人もいます。その鋭い感覚という特性を活かして活躍できる人も大勢いるはずですよ。



グラッパ東京  
東京都足立区保木間1-1-3 東潤ビル1F  
TEL / 03-6677-2976  
<http://nonno-teppan.com/>







## 心と身体をリフレッシュする 家で行うダンスレッスン

ここ数週間ですが、息子・麗良(れいら)と一緒に家の中で過ごす時間が増えました。

まだ身体が弱かった幼い頃に比べると、学校に通うようになってから、福祉事業所に行くようになってから、そして成人してからは一緒に過ごす時間は減っていました。

社交的な息子ですから、家の中に閉じこもっているのはストレスを溜め込むことになるのではないかと思います、家の中でできるアイデアをいくつか考え、それを実践することにしました。

数あるアイデアのうち、息子に好評だったのが室内で行う「ダンスレッスン」と称したエクササイズです。

ノリの良い音楽を掛けて、それに合わせて身体

Msize  
エムサイズ  
水越けいこ連載 31

# はじまり

Keiko Mizukoshi



シンガーソングライター  
水越 けいこ

1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の情報番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後、「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子・麗良と2人暮らしをしながら音楽活動と講演活動を続けている。

を動かします。若い息子にとっては大した負担ではないと思いますが、私にとってはかなりハードなエクササイズになっています。

以前に脚を痛めてから、機能回復のつもりで多少の運動はしていましたが、これほど身体を動かすことはありませんでした。

興が乗れば6〜7曲も踊ることもあり、親子で身体を動かして大量の汗をかくことが運動不足とストレスの解消になっています。

その他にも、室内で二人で出来ることをいくつか行っていますが、それはいずれまたの機会に報告させていただきます。

平時だと、二人で散歩に出る、公園を散策する、買い物に出掛ける、息子のお友だちや知人に会いに行くということができましたが、現在のような社会情勢だとそれを自粛せざるを得ません。以前だったら何も意識せずに行っていたことが、い

## こんなに遠く離れていても 微かに光見えればそれでいい

現在の大きな社会情勢の変化によって、生活様式が変わるとも予想されています。それらによって、エンターテイメントの在り方が変わっていくことにもなるのではないかと思います。

それでも、何百年も時が経過してもクラシックや民族音楽などが愛好され続けるように、音楽だけは不変だろうと思います。いや、音楽には不変であって欲しいと願います。

音楽には時として、人の生き方や考え方に影響することや、落ち込んだ気持ちを盛り上げるなど不思議な力があります。

また、音楽との出会いが人生の転機になること

もあります。私にとっては「Too far away」との出会いがそれに当たります。今回はこの楽曲と出会った時のことを書いてみたいと思います。

当時の私はといえば、北新宿にあった1LDKのマンションで一人暮らしをしながら、シンガーソングライターとしてのキャリアを積もうと音楽活動に明け暮れる日々でした。

「Aquarius」というアルバムを制作していた時のこと。アルバムのラストを飾るに相応しい壮大なバラードが欲しくて、デビュー当時からお付き合いがあった伊藤薫さんに作詞と作曲をお願いしました。

しばらくして、伊藤さんがギターを持ってスタジオに現れました。自らの弾き語りで披露してくれた歌を聴きながら鳥肌が立ちました。

愛をモチーフにした歌詞、それを包み込むように流れるメロディー、楽曲が持つ世界観に強く引き込まれてしまいました。それが「Too far away」との出会いでした。

曲を聞き終えると同時に「絶対に歌いたいです！」と当時のプロデューサーと伊藤さんに懇願したことを覚えています。

素晴らしい楽曲に恵まれて、いざレコーディングとなったものの、私には課題がありました。ひとつは、人生経験の少ない私がこの曲を歌いこなすためにはどうすれば良いのかということ。もうひとつは、曲の持つ世界観を表現するために

かに貴重なことだったのかと改めて感じました。

外出の機会が減ったことで、これまでの自分の人生を見つめ直すこと、息子のこれからを考える時間が増えました。ネガティブなことを考えると気分が滅入ってしまいます。そこで、できるだけ明るいことを考え、これまでに起きた楽しかったことなどを思い返しました。そして、「今日できることを精一杯やろう」常に人間らしくあることに努めよう」とポジティブに考えました。

私たち親子に限らず、外出を自粛している人たちが大勢いると思います。外出できないことで不便さを感じる人たち、また、未だ情勢の出口が見えないことで不安を感じる人たちが多いと思います。でも、必ず日常は戻ってくるはずですよ。その日まで一緒に頑張っていきましょう。

「最初から最後までワンテイクで通したものを収録したい」というプロデューサーの意向に添えること。この2つにどう立ち向かえばいいかと必死にもがいていました。

詞を読み込み、曲を何度も聞いて世界観を頭に叩き込んでレコーディングに望みました。

この曲が持つ世界観に没入できないよう暗めにセッティングしてもらったスタジオの中で集中し、その時に持てる全ての力を注ぎ込んでの収録になりました。

最初から最後まで通して歌ったのは3テイクのみ。そのうちの1テイクが私の「Too far away」になりました。

現在でも多くの人たちに愛され、私自身も歌い続ける大事な曲ですが、この曲を超える作品を世に送り出したいと思っています。



水越けいこ「僕らの気持ち」絶賛発売中!



MELDIA Vol.7

### カフェ併設の就労継続支援施設は地域の人びとの憩いの場



# 大矢真那インタビュー特集 FEATURE AN INTERVIEW WITH MASANA

MELDIA and I

## 2年間のMELDIA取材で 感じた自分の変化

新型コロナウイルス感染症の影響により、外出自粛が要請される中、読者の皆さんも不便な思いをされていることと思います。私たちも例外ではなく、対面での取材が難しい状況です。

\*

私は今までに、障がいのある人、福祉系事業所や団体の代表の人、障がいのある人を採用する企業担当の人など、様々な立場の人からお話を聞いてきました。アプローチは違って、障がいのある人たちを応援し、共により良い社会を作っていきたいという根本の思いは同じでした。

\*

今号では、2年間で25回以上にわたりインタビューさせていただいた中から3つの記事をピックアップし、当時は振り返りながらご紹介します。

政府から発出された「緊急事態宣言」と、政府ならびに東京都からの「外出自粛要請」を受けて、被取材者、取材者、編集部、関係者などの安全面および衛生面に最大限の配慮をし、WEB会議システムを利用したリモート取材を行いました。また、記事の内容の一部は既刊号で取材した内容を再構成して掲載しています。

MELDIA7号では、栃木県足利市にある「コミュニティカフェよこまち」で、この施設の管理者である柏瀬さんや、お店で働く人たちにお話しをお聞きしました。赤いオーニングテントと開放的なテラス席が目印の印象的な建物は、2014年に足利市建築・景観賞を受賞しています。カフェで提供するコーヒーは、手間を惜しまず生豆の選定から行われ、豆の鮮度にもこだわっているそう。フードメニューもバラエティー豊かで、お店は地元の人で賑わっていました。

障がいのある人の就労支援をしている社会福祉法人が運営する「コミュニティカフェよこまち」。こちらの施設管理者である、柏瀬旬さんにお話しをお聞きしました。

カフェができたのは2014年6月ですが、母体となる「社会福祉法人 渡良瀬会」が障がいのある人の自立と就労を支援する入所施設を作ったのは、昭和38年にまでさかのぼります。当時は障がいへの理解が今ほど浸透しておらず、障がいのある人たちが地域で暮らすのは難しい時代だったそうです。月日が流れ、多くの変遷を経て、地域の中にカフェをつくることになったのだとか。

印象的だったのは、柏瀬さんから「これまでに

大矢さんの周りに障がいのある人っていませんか？」と質問されたこと。記憶をたどると、同じクラスに障がいのある同級生がいて、子どもだった頃から違和感なく一緒に遊んでいました。大人になった今も障がいの有無を気にしないのは、幼少時代のそんな体験からだと思っています。

柏瀬さんは「障がいのある人たちに對する理解が今後もっと進むことを望んでいます。それも我々の仕事次第だろうと考えています」と言いました。(MELDIA7号より)

カフェよこまちはカフェの運営だけに留まらず、積極的なイベントの開催や「こども食堂」の実施によって、年齢や障がいの有無などの垣根がないノーマライゼーションが実践されていると感じました。



珈琲豆に混入する虫食い豆や異物を手作業で取り除く工程は、集中力と根気、丁寧さが必要だと感じました。

(大矢)



MELDIA  
Vol.6

誰かから必要とされ、誇りを持てる仕事で人は成長する

こころみ学園  
学園事務局長  
さいまさお  
佐井 正治さん



創設者の川田さんは、戦後この急斜面を教え子と共に開拓し、気の遠くなるような努力を重ねたといいます。その思いが脈々と受け継がれています。



ワインの製造を行う福祉事業所として有名な栃木県足利市にある「ココ・ファーム・ワイナリー」を訪ね、母体である「こころみ学園」事務局長の佐井正治さんにお話を聞いてきました。

1950年代、創設者の川田昇さんが当時に教鞭を執っていた特殊学級（現在の特別支援学級）の校外学習の形で自ら山の開墾をされました。生徒たちが少しずつ参加する中で、ブドウ栽培とワイン造りをするようになったといいます。

なぜワイン造りを選んだのかについては、「ブドウ栽培やワイン造りには地道な作業や工程の積み重ねが必要で、障がいのある人たちの特性がその作業に生かせるから」と言います。もう一つの理由は、創設者の川田さんが、障がいのある人たちに「かっこいいことをさせたい」と思ったからだそうです。

ワインの製造には多くの工程があるといいます。原料となるブドウの栽培を始めとして、醸造までの工程に障がいのある人たちが関わっています。ワインの品質が認められることが彼らの誇りとやがいに繋がっているのではないかと思います。

あ\*と\*が\*き



2年半以上の期間、MELDIAの取材を経験し、障がいのある人たちが生き生きとお仕事する様子を目の当たりにしたり、支援する事業所の人からお話しをお聞きしてきました。そんな中で、このような施設が実は私たちの暮らしのすぐ近くにたくさんあること、また、障がいのある人たちは様々な才能があり、その才能を引き出すために事業所の人たちが工夫を凝らしていることも知りました。

取材を通じて、これからもより多くの人に障がいのある人たちのことを伝え、身近に感じてもらうといいなと思います。

大矢真那

MELDIA  
Vol.21

障がいへの理解が広まる一歩、ポスターがSNSで話題に



横浜市港南区福祉保健センター  
高齢・障害支援課長  
たけだよしお  
武田 良雄さん

横浜市港南区福祉保健センター  
高齢・障害支援課  
障害支援担当係長  
いけはたかずき  
池畑 和輝さん



「あたたかく見守ってください」という一枚のポスターには障がいへの理解が広がって欲しいとの願いが込められています。

SNSで拡散され、多くのメディアに取り上げられた1枚のポスターがあります。

横浜市港南区役所が制作した「あたたかく見守ってください」と書かれたポスターには、発達障がいから起きる様々な行動がイラストと分かりやすい言葉で説明されています。

発達障がいのある人たちの中には、その特性から様々な行動が見られることがあるといいます。これらの行動を周囲の人たちに知ってもらうために、当初は病院内に掲示される想定でポスターが制作されたそうです。

完成までには区内の障がい者支援団体、医師会、薬剤師会などの人たちの意見を聞きながら、多くの人の目に留まるようにと工夫と試行錯誤を重ねたそうです。



街で見かけたポスターやSNSで触れた情報で障がいについて知ること。それがきっかけとなり、関心や理解に繋がると思います。(大矢)

制作に携わった多くの人たちの「障がいへの理解が広まって欲しい」という願いがポスターに込められました。

最初は港南区にある駅の構内に貼られ、そのポスター画像がSNSであつという間に広まり、多くの関心や共感を得るようになりました。

ポスターが多くの目に触れたことで、障がいのことを「知らない」「分からない」という人たちに興味を持ってもらうことに繋がったようです。

このポスターについて、多くの取材を受けただけでなく、教材として使用されたり、パリンピックの紹介冊子に載ったこともあったそうです。予想を遥かに超える反響があったと聞きます。このことをきっかけに、障がいに対する理解が広まるいいなと感じます。

## 対応と対策に奔走する 福祉関係者に緊急取材!

新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言の発出や外出自粛要請がなされたのは既知の通りです。まずは、今回の新型コロナウイルス感染症の影響を受けた皆さんに誌面を通して略儀ながらお見舞いを申し上げます。この感染症による影響が、例外なく私たちの生活を蝕んでいます。もちろん、私たちだけではなく、障がいのある人たちや高齢者、その家族、そして福祉事業に携わる人たちも例外なくこの困難に直面しています。障がいのある人たち、福祉事業に携わる人たちの窮状に耳目が触れる機会も多く、その現状を伝えることが本誌発行の理念にも敵う社会的責務だと判断して緊急取材を行いました。



福祉の最前線を護る人たちに  
直面する問題と窮状を聞いた

障がいのある人たちと福祉事業に携わる人たちにも大きな影響を与えているのが、一般的な新型コロナウイルス感染症の蔓延による感染事例の拡大です。

障がい福祉の現場では省令や条例による指針を遵守し、感染症対策に向けた対策を従前から徹底してまいりました。

しかし、一般への緊急事態宣言の発出より早い時期に厚生労働省から「社会福祉施設等における感染防止のための留意点について」など感染防止に関する事務連絡(※)が行われ、続いて、「社会福祉施設等の利用者等に新型コロナウイルス感染症が発生した場合等の対応について」(表記ママ)や「感染症対策や集団発生防止に掛かる注意喚起」などにより、さらなる感染症対策と感染防止策に努めるように求められることになりました。

これにより、福祉の現場では感染の予防とウイルス流入の抑止に向けて対策と対応に昼夜を問わず忙殺される時間も格段に増えています。まずは「感染防止対策」についてを聞いてみました。

- ☑ 利用者や職員に手洗い、うがい、マスク着用を徹底を周知している
- ☑ 利用者や職員に限らず施設内に立ち入る人の全員に検温を義務付けている／時間を決めて全員の検温を行っている
- ☑ (利用者や職員の両方に対して)体調の問診を行っている／体調を管理している
- ☑ 施設内の消毒を一日に複数回やっている
- ☑ 施設内の全部で換気を励行している
- ☑ 3密(密集、密閉、密接)を避けるように注意している／注意喚起をしている
- ☑ 利用者の外出、家族の面会、帰省などを自粛してもらっている／期間を決めて禁止している
- ☑ 外来者の立ち入りを制限している
- ☑ 送迎車に乗せる人数を最小限にしている

※事務連絡／施行や発令などの手続きを経ずに行政機関の内外に広く知らせる書面または連絡のこと。  
※有事でも忙しなく関わらず取材にご協力をいただいた福祉事業所ならびに福祉関係者に感謝すると共に心よりお見舞いを申し上げます (編集部)

次に「不足しているもの」や「困っていること」について。

- ☑ マスク、手袋、消毒液、体温計、エプロン、防護服、フェイスシールド、その他の備品が不足している／手に入らない
- ☑ 体調が優れない人を一時隔離する部屋がない
- ☑ 3密を避けるように啓蒙しているが(障がいのある人の中には)実践してもらっていないことが難しい場合がある
- ☑ (自粛が続きストレスが溜まっているせい)か問題行動が散見される／情緒が不安定になっている人もいる

回答の中には「職員不足により休暇がとれない」「業務が増えてしまい疲弊してストレスを抱える職員もいる」などの意見もありました。コロナ禍の影響は事業所で働く人たちにも広く及んでいるようです。

また、政府が推奨するテレワーク(リモートワーク)に対しては、「テレワークの実現は障がい福祉の現場では不可能に近い」とする回答もありました。

在宅支援や介護支援などについては「介護支援は職員にリスクに晒す可能性があるため継続を憂慮せざるを得ない」とする意見も、作業所としての機能を置く事業所や、施設外

就労を行う事業所、店舗の形態をとる事業所の中には工賃減少の問題にも直面して頭を痛めているところもあるようです。

- ☑ 元請け企業の減産の影響で作業が減った
- ☑ 施設外就労先の企業が休業になった
- ☑ 来客が減って売り上げが見込めない

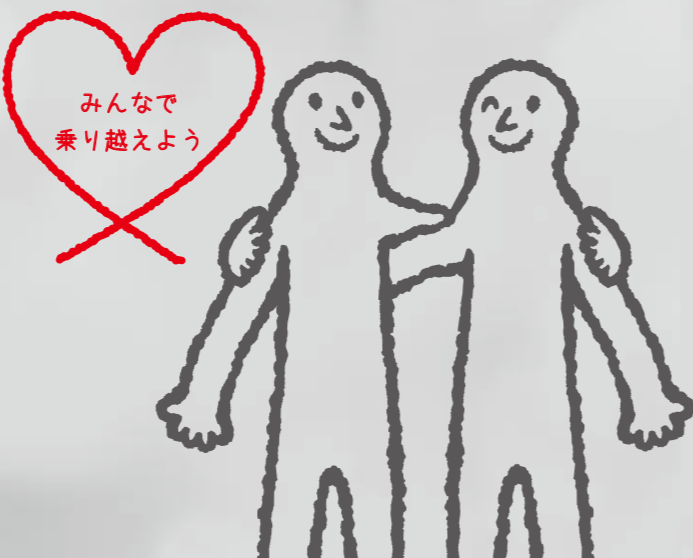
今回のコロナ禍による影響は例外なく社会全体に波及しています。健康面への影響に留まらず、精神、経済、教育、医療、社会構造などに甚大なダメージ(被害)を与えています。

もちろん、障がいのある人たちや福祉事業に携わる人たちも「例外なく」甚大なダメージを被っています。

障がいのある人たちも福祉事業に携わる人たちも、間違いなくコロナ禍の被害者であるにも関わらず、謂われなき誹謗中傷を受けることも少なくないようです。

他者を「非難すること」や「中傷すること」は人と人とを分断する元凶になることに他なりません。これは、福祉の理念に反することにもなりかねません。

誰もが「例外なく」辛苦を味わっているのならば、協調して事態の收拾まで、出口が見えるまで、今こそ手を携えて皆でこの局面を乗り切っていくことが必要なのだと思います。



### あとがき

業務で多忙を極める人たちに対して取材をお願いするのは心苦しいことでした。しかし、取材趣旨を説明すると、「現状を知って欲しい」や「窮状を多くの人に知らせたい」という返答が多く、今回の「緊急取材」の掲載を後押ししていただく形にもなりました。

未だ難局の出口さえ見えない状況下で障がいのある人たちの安全、安心、暮らし、そして尊厳を護るために奮闘努力されている福祉事業所の関係者と、自身のリスクを厭わずに支援を続けている人たちに向けたエールとなるようお願いを込めて本稿の「あとがき」とします。

# 心配無用

知って安心!

知っていて安心の法律知識、「民事信託」をご存知ですか？



Yokohama Sogo Law Office  
**YSLO**  
横浜綜合法律事務所

弁護士/鈴木心

1987年東京都出身。中央大学法学部、明治大学法科大学院修了。2016年弁護士登録。2018年より横浜綜合法律事務所において交通事故、不動産問題を中心に様々な案件を取り扱う。2020年同事務所内で独立。

## 家族信託・個人信託・福祉信託の民事信託を活用し柔軟に対応

突然ですが、明日あなたが交通事故で重篤な傷害を負ったと想像してください。  
障がいのある子どもがいる家庭において、親が子どもを面倒をすることが多いですが、今は健康であっても、将来的には身体が動かなくなることや、子どもよりも先に自分が亡くなってしまってもいけないことに不安があるはず。このような不測な事態に備えて、遺された家族に対して十分な対策をしているでしょうか。

## 具体事例で解説する民事信託 不動産を運用して介護費用に

### ■相談内容(例)

相談者A、長男B(重度の障がい)、次男C、信頼できるAの弟D。  
相談者Aの夫は既に他界しており、AがBの介護をしていた。Aは、夫が遺した不動産から得られる賃料収入をBの介護費用に充てており、その他の財産はない。

Aは、自身が亡き後のBの生活が不安であるが、幸いにもCがBの面倒を看ると言っている。そこで、Aは、自身が認知症で判断能力を失ったり、亡くなった時にはCに不動産の管理や運用を委ねてその収益をBの介護費用に充ててもらったうえで、収益の一部をBにも受け取ってもらいたいと考えた。また、Cが不動産会社に勤めていることから、不動産の売却権限も与えたいと思い、どのような対策がとれるかを弁護士に相談した。

### ■遺言・成年後見制度での対応

まず、遺言だけではCに不動産の管理収益を委ねて収益をBの介護費用に充てる、不動産処分タイミングを委ねるといった柔軟な対応はできません。

また、CにBの成年後見人になってもらうたとしても、不動産の売却等の財産の運用は、後

一般的対策として、相続財産を適切に活用するために保険、遺言、成年後見制度を利用することが考えられますが、さらに「民事信託」を利用すれば、遺言や後見制度では対応しきれない意向や要望が叶えられるかもしれません。

例えば、後で説明をしますが、成年後見人に収益不動産を管理や運用してもらって、その収益を子どもの介護費用に充てて欲しいと思ったとしても、成年後見人は財産の保全が目的のため積極的な運用を行うことはできません。

しかし、民事信託を活用すれば、このような需要にも柔軟に対応できます。

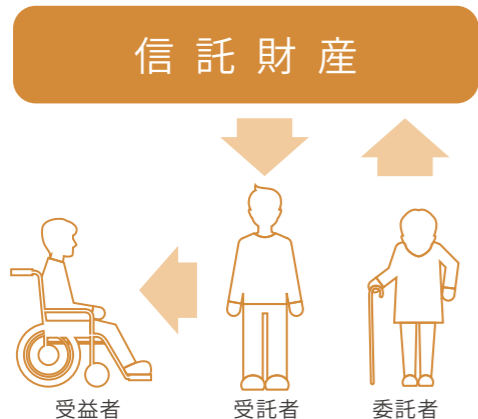
では、「信託」とは一体何なのでしょう。

見の目的に合致しないことから実現できません。加えて、裁判所は、弁護士等の専門家を選任する傾向にあるため、Cを成年後見人にすることは難しいのが実情です(平成31年の成年後見制度利用促進専門家会議で最高裁判所が「後見人は家族優先」との考え方を示したので、今後は運用が変わるかもしれません)。

### ■信託の活用

信託を用いる場合、委任者をA、受託者をC、受益者をAとB、不動産を信託財産にして不動産の管理や運用をCに行ってもらうことにします。そして、長男Cに対しては、不動産から得られる収益の一部を信託報酬として与えることにします。

図1



信託とは、「(財産を)信じて託す」こと、すなわち、自分(委託者)の財産を信頼できる人物(受託者)に託して特定の人(受益者)のためにその目的に従って管理や運用をしてもらうことを指します。この財産を託す「委託者」、託された財産を管理・運用する「受託者」、得られた利益を收受する「受益者」の三者によって成立する仕組みが信託です(図一)。

信託には、投資等の営利目的に利用する商事信託とそれ以外の民事信託に大きく分けられ、民事信託は、家族信託(家族のための信託・個人信託(個人のための信託)・福祉信託(未成年、高齢者障がい者のための信託)に分類することができます。

また、Aの判断能力に問題が生じた場合に備えて、信頼できる弟Dを受益者代理人に設定します。

こういった信託契約を締結すれば、Aの不安を解消できるようなスキームを構築することができます。なお、福祉サービスの契約等は成年後見人に認められている身上監護事務にあたるため、成年後見制度も併せて利用しておくべきでしょう。

信託制度の概要のみを伝えましたが、不明点・疑問点がたくさんあるかと思いますが、今後も信託の制度を説明していきます。

※家族信託は一般社団法人家族信託普及協会の登録商標です。



横浜綜合法律事務所

神奈川県横浜市中区日本大通11番地  
横浜情報文化センター11階  
TEL / 045-671-9521  
http://www.breeze.gr.jp/



# つむぐ

政府から発出された「緊急事態宣言」と、政府ならびに東京都からの「外出自粛要請」を受けて、被取材者、取材者、編集部、関係者などの安全面および衛生面に最大限の配慮をし、記事の一部を既刊号で取材した内容を再構成のうえ掲載しています。



## Interview with

社会福祉法人 エルム福祉会  
障がい者相談支援センター エルム  
センター長／相談支援専門員  
**渡邊佳世さん**  
わたなべかよ



## Interview with

芸術家／  
元・足利短期大学  
こども学科 教授  
**伊藤七男さん**  
いどうななお



## ～障がい者を支援する人たち～

これまでに全国各地に赴いて、障がいのある人たち、その支援をする人たち、福祉に携わる人たちなど、多様な人たちにお会いしてきました。

本誌に関わる以前の私は一般的な知識しか持っておらず、取材を重ねる毎に、自分がかに「障がい」や「福祉」のことを知らなかったのかを実感することにもなりました。

古代ギリシャの哲学者・ソクラテスは「いかに善く生きるべきか」の探求には「無知の知」、つまり「知らないことを自覚すること」が必要だと説きました。

今回は特別編として、取材を通して私が得た「知」を紡ぎつつ、「障がい」や「福祉」についてを改めて探求していこうと思います。

## Writer



取材・文  
**渡邊 希望**  
俳優・脚本家・演出家

1988年神奈川県生まれ。大学時代に現代小説を専攻。2015年に「劇団ショートホープ」を立ち上げる。俳優・脚本家 だけでなく、演出家としても活躍し、音響も手掛けるなど、多岐に渡って才能を発揮する。ハイペースで脚本&演出 をこなす。その舞台はいずれも好評と人気を博している。

渡邊希望Twitter / [https://twitter.com/nozomi\\_w0330](https://twitter.com/nozomi_w0330)



## 記事を再構成して新しく紡ぐ 正しい認識が正しい理解へと

多くの取材を通して感じたことは「障がいのある人たちとの接点在日常の中に少ないのではないか」ということ。

結果として、間違った知識、先入観、概念などが邪魔をして、正しい情報を得られない、正しく判断ができない、いわゆる「バイアス」の状態に陥ってしまうことになる。こうなると、得られる情報が偏っていることによる「認識の歪み」が起こってしまいます。

この歪みを是正するために、取材で当事者に聞いたことを正しく伝えていけば良いはずですが、誌面に限りがあることで、全部を紹介することはできませんでした。

今回、緊急事態宣言の発出と各都道府県による外出自粛要請を受けて、過去に取材した記事を再構成してお届けすることになりました。

ソクラテスのように「いかに善く生きるべきか」を探求するまでには至りません。でも、障がい、障がいのある人たち、障がい者支援をする人たち、福祉に関わる活動をする人たちの言葉を再度「つむぐ」ことによって、障がいへの正しい理解が進み、更なる認知が進む機会にしたいと思えました。

# 募集&告知

## 各種募集と告知

布施博または大矢真那が取材に伺う「訪問先」を募集しています。  
また、当財団に対するご支援とご協力をお願いを掲載しています。

### 法律相談を募集 弁護士が相談を承ります

Recruitment

読者の皆さんや障がいの当事者またはご家族の人たちが弁護士に相談したい事、聞いてみたいことなどがありましたら当誌の事務局まで住所、氏名、連絡先、相談概要などをお送りください。本件の法律相談は無料で行います。

#### 【必ずお読みください】

- ※応募に際しての記載事項などは個人情報保護の観点に則り、本件以外には一切使用いたしません。
- ※本誌に掲載させて頂く場合、個人を特定できない匿名の相談内容として記事にいたします。
- ※相談の受任可否についてはお答えすることができません。
- ※全ての相談に対して回答するものではありません。

氏名、連絡先、相談概要などを以下に記載の住所またはメールアドレスまでお送りください。

#### ■応募先/郵送の場合

〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F  
一般財団法人メルディア事務局/法律相談係 宛て

#### ■応募先/Eメール

MAIL:org@gf-meldia.com  
※件名(Subject:)に必ず「法律相談」とご記入ください

### 月刊MELDIA常設設置拠点募集

一般財団法人メルディア(以下、当財団)では、広報誌「月刊MELDIA(以下、本誌)」の常設設置拠点を随時募集しています。特に障がいのある人が集まる場所や施設内部など、設置場所のご提供をお願いしています。詳細は当財団の事務局までお問い合わせください。

### 月刊MELDIA定期購読希望者募集

「月刊MELDIA」はフリーペーパーです。お近くに設置拠点がなく入手が困難な場合や、定期購読をご希望の場合に送料無料で発送しています。定期購読をご希望の場合は当財団事務局までご用命ください。

※定期購読の場合、発送業務に関しては、東京都新宿区内にある福祉事業所の利用者さんたちに依頼して全国に発送しています。

### 一般財団法人メルディアへのご支援とご協力を募集

障がいのある子供を持つ親の苦労や将来への不安は、他の人には計り知れないほど大きなものがあります。さらに、それが寡婦・寡夫家庭であった場合、経済的な負担、苦労、不安なども一人で背負わねばならない状況に置かれることもあります。

私たち「一般財団法人メルディア」は、会報誌「月刊メルディア」を通じて、誌上に厳選した有益な情報を掲載することで、周囲との情報交換もままならず不安を抱える人たちの情報源として、その一助となれることを目指しています。

私たち「一般財団法人メルディア」の活動に対するご支援(取材協力・協業の相談・各種支援・支援金・寄付)など、当財団の趣旨に賛同してご協力を頂ける企業・団体・個人を募集しています。下記にある当財団の事務局までご相談ください。

#### お問い合わせとご相談はこちら 一般財団法人メルディア

〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F  
一般財団法人メルディア 事務局/担当:後藤(ごとう)・鷺坂(さぎさか)宛て  
TEL:03-5381-3213 / MAIL:org@gf-meldia.com



一般財団法人  
メルディア  
Media Foundation

#### ホームページとFacebook

一般財団法人メルディアのホームページでは当財団の取り組みやイベント情報、取材の裏話など、情報が盛りだくさん! Facebookページのご用意もあります。是非とも一度、ご覧ください。

MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



まずは、過去2度にわたって取材をした伊藤七男さん。大学で教鞭を執りつつ、自身も芸術家として活動をしながら、個人として障がいのある子どもらにアートを教えたり、障がいのある人たちのアート展を企画するなどの活動をしています。

あくまでも個人的な意見だと前置きをしながら、障がいのあるアーティストたちの作品を芸術家ならではの視点でこう話してくれました。

また、彼らの活動を後援する理由についても聞いてみました。

伊藤 観る者の心を動かすほど素晴らしい「何か」を持ちながらも、それを容れる「器」が用意できない人も多い。彼らにはアートを発表する手段を持たない人もいます。人間(ひと)が能力や才能を発揮するためには「環境」という「器」が必要です。環境を作ってあげることで、多くの人たちに観てもらえる機会を作ることなどを手助けしてあげれば良いだけです。



今回、こうして伊藤さんとの対談を振り返って改めて思うことがあります。自分が持つ能力や才能って、周囲が環境を作ってくれたからこそ見付けることができたものもあったのではないかと。障がいのある人たちが一歩先に進むための環境を作ってあげる支援が重要なのだと思うことができました。

「環境」ということに言及すれば、福祉事業所で相談支援員として働く渡邊佳世さんに聞いた取材でこういう意見もありました。

渡邊 人(人間)というのは、人として生まれて、普通に生活をして、最後にはそれが終わるといのが自然な生き方なんだと思います。障がいのある人たちの中には、その自然な生き方すら全うできない人もいます。

誰もが享受できるはずの普通の生き方ができていない、自然な生き方ができていない、とする理由を渡邊さんはこう語りました。

渡邊 周囲の人たちの障がいに対する理解の不足が要因となっている場合が多いと思います。人としての本質的な部分である「いま生きている」ということ、「普通に暮らす」という部分が保障されずに曖昧なままにされてしまっている場合があるのではないかと感じます。

障がいがあることを理由に、本来は擁護されるべき権利が保障されていない場合や、偏見により人権が尊重されていない可能性があることなどを示唆してくれました。

今回は創刊から2年半の間に私が取材をさせてもらった記事の中から抜粋して再構成しました。こうして過去の取材を振り返ってみることで、俳優として、脚本家として、そして演出家として、私がストーリーテラーとなって記事を「つむぐ」意味を改めて見出すことができましたような気がします。

※編注/記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび月刊MELDIAの公式見解ではありません。



SHONAN BELLMARE  
JAPAN PROFESSIONAL FOOTBALL LEAGUE

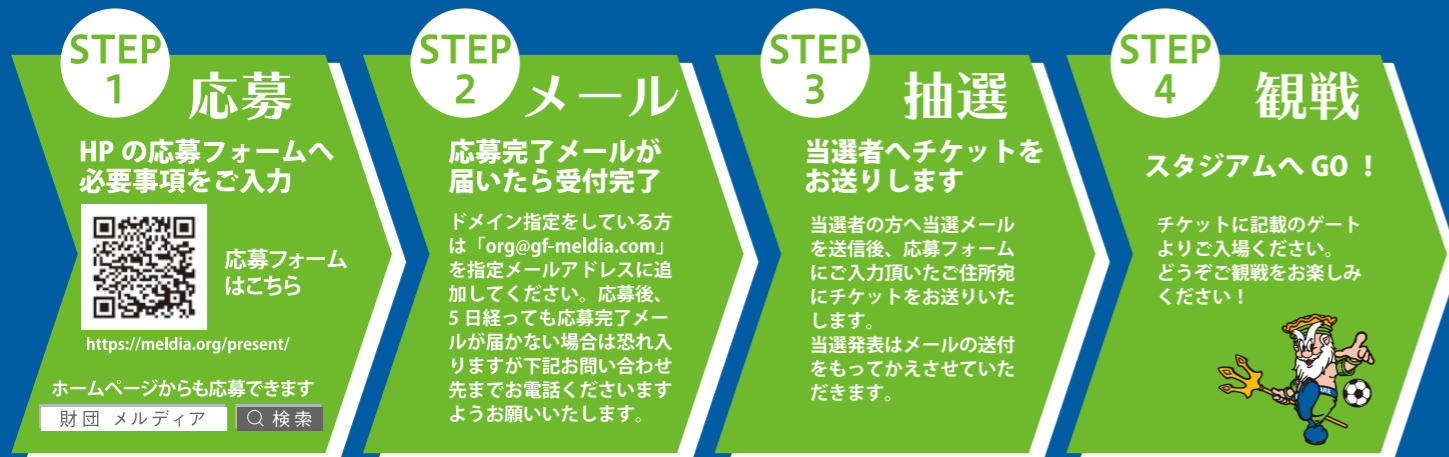
©1993 SHONAN.BM



療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方を湘南ベルマーレのホームゲームに抽選でご招待いたします。

政府による「緊急事態宣言」の発出と各都道府県からの「外出自粛要請」を受けて、Jリーグの全試合および全日程の開催延期または中止が発表されています。今後の詳細に関しまして変更などの場合には右記のURLにて随時お知らせします。 <https://meldia.org/>

### ■応募から観戦までのステップ



※当財団はチケットプレゼントのみ提供いたします。試合当日のご案内はいたしかねますので予めご了承ください。なお、会場内で生じたトラブル等に関しては一切の責任を負いません。あわせてご了承ください。

### ACCESS

Shonan BMW スタジアム平塚へのアクセス 詳細は湘南ベルマーレ HP をご覧ください

JR 東海道線平塚駅、小田急小田原線伊勢原駅よりシャトルバス、路線バス運行

圏央道寒川南 I.C. より湘南銀河大橋、国道 129 号線経由で約 15 分 (国道 129 号線に随時「総合公園へ」の看板あり)

駐車場は台数に限りがありますので予めご了承ください。

### ■お問い合わせ先■

一般財団法人メルディア 事務局 担当:鷺坂(さぎさか)/後藤  
TEL 03-5381-3213 受付時間▶月曜日~金曜日 9:30~18:30

※抽選結果に関するお問合せにつきましてはお答えしかねますのでご了承ください。

# 31 MELDIA CONTENTS 2020 JULY

- 01| 障がい者を応援  
株式会社Nextwel / 神奈川県川崎市
- 06| 一般財団法人メルディアとは?  
メルディアの基本理念、財団概要、支援事業
- 07| 篠崎彩奈の「あやなんがいく」  
医学博士・関谷剛さん
- 11| 布施博が訊く  
特別編「布施博が訊く・選」
- 15| 水越けいこ連載「M size / はじまり」  
水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る
- 17| 障がい者を応援  
大矢真那が語る「MELDIAと私」
- 21| 緊急取材  
コロナ禍に揺れる全国の福祉事業所に緊急取材
- 23| 弁護士・鈴木心の「心配無用」  
横浜総合法律事務所 / 弁護士・鈴木心
- 25| つむぐ  
障がい者を支援する人たち
- 28| 募集と告知  
各種募集と一般財団法人メルディアからのお知らせ

政府から発出された「緊急事態宣言」と、政府ならびに東京都からの「外出自粛要請」を受けて、被取材者、取材者、編集部、関係者などの安全面および衛生面に最大限の配慮をし、取材に関してはWEB会議システムを利用したりリモート取材を行いました。また、今号の一部記事においては既刊号の内容を再構成して掲載しています。

月刊 MELDIA Vol.31 / 2020年5月25日発行

発行元 / 一般財団法人メルディア  
 発行人 / 小池信三  
 事務局 / 榎本喜明、後藤正善、鷺坂浩章  
 編集 / 株式会社サン・オフィス  
 編集人 / 東宮恵美  
 編集長 / 山口慎市  
 進行 / 谷田貝巨介  
 編集部 / 株式会社サン・オフィス  
 ライター / 水越けいこ、布施博、大矢真那、篠崎彩奈、鈴木心、森清香、渡邊希望、大橋はるか、相原あやめ

カメラマン / 吉岡晋  
 ヘアメイク / 株式会社Dharma  
 デザイン / 有限会社フレッシャー・アド  
 印刷製本 / QREAS株式会社  
 協力 / MELDIA GROUP 株式会社三栄建築設計、株式会社Nextwel、合同会社LOHAS OFFICE、横浜総合法律事務所、株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ、株式会社Dharma

※敬称略 / 順不同

With sincere gratitude, Special thanks to...

「緊急取材」のページにご協力をいただいた皆さん

本誌の無断転載・複製を禁じます

2017-2020©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア / 月刊 MELDIA  
 MELDIA GROUP 株式会社三栄建築設計 / 株式会社サン・オフィス



次号予告

MELDIA VOL.32

2020年6月25日 発行予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632  
 東京都新宿区西新宿 1-25-1  
 新宿センタービル 32F  
 一般財団法人メルディア 事務局  
 TEL: 03-5381-3213  
 MAIL: org@gf-meldia.com



一般財団法人  
メルディア  
Meldia Foundation